

第2回 運営会議 議事録

日時：平成21年8月20日

場所：大阪府庁別館北館1階

さいかくホール

出席者（敬称省略）

増田 昇（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）

澤木 昌典（大阪大学大学院工学研究科 教授）

前中 久行（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）

下村 泰彦（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授）

嘉名 光市（大阪市立大学大学院工学研究科 准教授）

清野 博子（元読売新聞編集委員）

吉野 勝（泉佐野観光ボランティア協会）

西台 幸子（うみへの森を育てる会）

松下 義彦（泉佐野市 都市整備部長）

おもな意見

議案1：ハード整備について

<法面実施設計>

- ・法面を樹林にしたときに神社跡からの眺望は妨げにならないよう配慮が必要。
- ・民活地への進入路は、市道認定するための接道条件を満たそうと思えば、10m 近い幅員の道路を通さざるえない状況であることは否めない。
- ・急峻軟弱地盤は手当てなく使っても大丈夫なのか。崩れたりしないのかが心配である。
- ・「在来種」「郷土種」は定義を明確にすべき。地域性種苗という考え方もあり、同じ樹種でも地域が異なれば種類が違うものとして認識され始めている。また、問題がないということがわかっている樹種あれば、外来種を使っても構わないのではないか。

委員長まとめ

- ・線形が変わらないという前提であれば、進入路の整備に伴うインパクトの軽減に極力努めてほしい。
- ・神社跡の眺望点については眺望を確保しながら、基本的には樹木景観を回復する方向としたい。
- ・民活エリアの法面を放置しておくのではなくて、法面緑化しておけば民活エリアの価値も高まるかもしれない。当面使わないのであれば、法面緑化しておくほうがよいのではないか。

<駐車場周辺設計>

- ・棚田は昔からのもので貴重なものであることは認識している。しかし、この土地は公

園という新たな土地利用を展開している場所であり、棚田を昔のように修復していくという方向性ではないはず。新たな土地利用のひとつに棚田があり、すべてを修復するという事に疑問を感じる。

- ・ 棚田の魅力は造形的な美しさだけでなく、そこに人の営みがどう関わるのかも含まれている。形と利用の方法をセットで考えてほしい。
- ・ 公園のエントランスは、背後の山並みとの関係も考慮して訪れた人に魅力を感じてもらえるような風景をつくっておくべき。
- ・ 駐車場の整備イメージは「木立の駐車場」と提案されているが、疎林にすると棚田ではなくなる。棚田の風景と疎林の風景が本当の意味で成立するのかを整理すべき。
- ・ 神社跡は確かに重要である。見晴らしの場というよりは、下から見たときに神社があるように見せたほうが、意味のある景観をつくれるのではないか。
- ・ 個別の部分を検討するよりかは、全体を見ながら検討すべき。
- ・ いろんな提案をしていただく方向でもよいが、あまり欲張りすぎると齟齬がでてくる。まずはポイント、ポイントで驚きのある場所をつくっていく考え方もある。

委員長まとめ

- ・ 人間の営みをデザインに反映しながら進めてほしいということが、この会議の合意した意見である。
- ・ 今、事務局で考えられている棚田があって、棚田の畦に疎林があって、そこが駐車場になっているということに無理がある。むしろ、進入路沿いから見れば、神社跡に昔あったような樹木群があり、その背景に棚田が広がっているというのが駐車場のイメージである。

議案 2 : パーククラブの組織化について

- ・ 設立準備会は卒業証書をわたす日に第 1 回を開催し、その後、月に 1、2 回くらいのワークショップを開催してはどうか。室内で議論するだけではなく、現地での活動と併せながらワークショップ形式で進めていく形がよい。
- ・ 受講生は何かしたいという気持ちがピークだと思う。その機を逃さずに、できるだけ早い段階に活動や整備を始めていくのがよいのではないか。また、講座修了生が行う活動は、行政が枠組みを決めるものではなく、自発的な活動となるよう持っていくことがポイントになる。
- ・ アドバイザーかファシリテーターかはわからないが、行政以外にチームを調整する役割の人が必要。
- ・ 来年度のパークレンジャー養成講座は、第 1 期の卒業生が第 2 期の講座を運営していく方向性を考えたい。
- ・ 自立した組織とするためには、行政側が表に出ないことが重要。少しでも手助けすると期待されてしまう。そのような意味でアドバイザーというよりもファシリテーターの

ほうがよいのではないか。ファシリテーターにしっかり理解いただいて、自主的な活動、組織となるよう調整していただきたい。

- ・この公園で必要な能力を他の公園へ身に付けにいくという取り組みがあってもよい。
- ・これまでにゲームを通じた仲間づくりをされているように、コミュニケーションによる関係づくりが重要である。試行的な活動を通じて、お互いの役割分担ができる状況をつくっていく必要がある。
- ・行政が「できること」と「できないこと」を明確にしていくほうがよい。

委員長まとめ

- ・パーククラブ設立準備会をどのように運営していくのかを議論したい。今日の議論では、ワークショップ型で実行動をともないながら進めていく形が望ましいという意見があったが、そのあたりの整理と活動の開始時期についても整理いただきたい。
- ・パーククラブ設立準備会のファシリテーターを誰にお願いするのかということも含めて今後検討したい。
- ・パーククラブもひとつのパートナーシップであるが、その他にも公園にはいろんなパートナーシップがある。そのあたりも次回に整理したい。
- ・コラボレーション区域の内、どのエリアから活動が可能なのかということも整理いただきたい。